

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第47号 2012年12月12日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993
中部学院大学短期大学部 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

「2012年クリスマスをお祝いしよう」

志村 真 (学院宗教総主事 / 短期大学部宗教主事)

皆さん、クリスマスおめでとうございます。街角や商店のイルミネーションも輝きを増してきました。本学の両キャンパスも、大クリスマス・ツリーをはじめ、さまざまなオーナメントで飾られ、華やいています。皆さんの上に、神さまのご祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

クリスマス・ソングが流れる季節

クリスマスで忘れてはいけないのが音楽ですね。この季節、ショッピング・モールやスーパー・マーケットでもクリスマス・ソングが流されています。これまで数多くのクリスマス・キャロルやクリスマス・ソングが作られ、礼拝やパーティーで歌い継がれてきました。人生の思い出となるクリスマス・ソングをお持ちの方もいらっしゃるでしょう。また、アニメ・ソングと同じく、好んで歌うクリスマス・ソングは世代によって違うようです。

定番のクリスマス・ソングには、ジングル・ベルやホワイト・クリスマス、わたしの世代ではジョン・レノンの「ハッピー・クリスマス」、山下達郎の「クリスマス・イブ」など。少し世代が下がるとマライア・キャリー「恋人たちのクリスマス (All I Want For Christmas Is You)」などでしょうか。学生の皆さんはどんな曲が好きですか？

おすすめのクリスマス・ソング

さて、この後はお勧めのクリスマス・ソングをいくつか、ご紹介したいと思います。最初は定番中

の定番、「きよしこの夜」です。この曲は、1818年に、オーストリアはザルツブルグ近郊のカトリック教会のオルガンが故障したことで作られました。助祭のヨゼフ・モールがギターで歌えるように詞を書き、オルガニストのフランツ・グルーバーが曲をつけ、その日の礼拝で歌ったそうです。もともとはギター伴奏の曲だったのですね。名曲だけに数多くのバージョンがありますが、ここではアカペラ・グループ Boyz II Men のバージョンを一押しとします。彼らの『Christmas Interpretations Album』の中に収められていて、そのアカペラ・ハーモニーはまさに最高と言えるでしょう。(本学図書館所蔵)

もう一つ、賛美歌を紹介します。「いそぎ来たれ、主にある民 (神のみ子は今宵しも)」です。この曲のベスト・パフォーマンスは、これもアカペラの最高峰テイク6のものでしょうか。彼らのクリスマス・アルバム『He is Christmas』(本学図書館所蔵)に「O Come All Ye Faithful」として収められています。テイク6のこのクリスマス・アルバムは、「きよしこの夜」を含めて少し難しいアレンジになっていますが、ぜひともお聞きいただきたいと思います。

次に、マイケル・ジャクソン (ジャクソン5) はいかがでしょうか。リトル・マイケルの透き通った声が印象的な「The Little Drummer Boy」繰り返されるラバパンパーンには、自然とクリスマスの高まりを感じます。ちなみにこの曲は、陣内孝則監督の映画『スマイル 聖夜の奇



跡」で、重要な場面に流れます。

最後に、日本のゴスペル・グループ cocoro*co の「願い ~大切な日に~」はおススメです。子ども向けの曲をたくさん提供している小原孝さんと樹原涼子さんが作られた、クリスマス・パーティーを題材にした曲です。リフレイン 世界中の子どもたちが幸せになりますように には胸熱くなります。東北の被災地でよく歌われているのも肯けます。この曲のゴスペル・バージョンが、アルバム『cocoro*co のいのり』（本学図書館所蔵）に収められています。

クリスマス礼拝に集いましょう

12月20日、グレースホールで行われるクリスマス礼拝では、山川夕貴先生のご指導・指揮によるクワイアが「ハレルヤ・コーラス」を歌ってく

ださいます。「ハレルヤ」は、クラシックの作曲家ヘンデルのオラトリオ『メサイア』の第二部の最後で歌われる合唱曲です。歌詞の最初にはこうあります。ハレルヤ！全能の神、主が統べ治められるゆえに

『メサイア』が1743年、ロンドンで初演された際、国王ジョージ2世が「ハレルヤ」の途中に起立した（どうも史実ではないようです）ということから、この曲が始まると観客が起立することがあります。けれども、礼拝のときには立つ必要はありません。どうぞ、コーラスにあわせて心の中で「ハレルヤ」（ヘブライ語で「主を称えよ」の意）と賛美くださいね。

それでは、グレースホールでお会いしましょう。メリー・クリスマス！！

2012年 東日本大震災の被災地での取り組みから

本学では、昨年3月11日の大震災以降、様々な形で緊急支援そして復興支援に取り組んできましたが、今号でも研究・教育者、実践者として活動をなさっている先生方の中から3人に、それぞれの取り組み、あるいは研究についてご報告いただきたいと思います。この冬も、被災地と各地で生活しておられる方々の上に、神さまのお守りが豊かにありますように。

震災被災地で課題を抱える子どもたちに関する調査研究

短期大学部幼児教育学科 伊藤 龍 仁

社会福祉学科の吉川杉生（教授）と幼児教育学科の伊藤龍仁（准教授）は、岩手県三陸沿岸の津波被災地で、個別的な課題を抱える子ども達の、被災前後の経過とその後の生活・心理・発達面の変化を検証するために、昨年夏から共同して調査研究を続けている。このような子ども達は、不登校、引きこもり、留守家庭（保育）、要保護（社会的養護）、障がいなどの課題を抱える子ども達を指す。被災後における地域住民の生活課題は、その時間経過によって変化するため、定期的



に現地調査を継続しながら検証していくことを目指している。

昨年は、地域住民の避難所となる経験をした児童養護施設を中心に、関係機関や保育施設等を調査した。今年も引き続きこれらの施設を調査する中で、流失した保育所が仮設保育所として再建されたり、施設の生活が再建される様子を目の当た



りにしている。また、現地の関係者との交流が深まる中で、同行した本学幼児教育学科の学生たちが現地保育施設の職員に暖かく迎えられ、子

どもたちにシャボン玉あそびを提供するなどのつながりも生まれつつある。このような被災地の人々との交流を通して感じることは、現地で被災地の現実を体感するにより、私たち自身や日常を問い直すことにつながるということである。今回同行

した学生たちも「自らを振り返り保育者像を再構築する機会となった」と語っている。今後も本研究に取り組む中で、少しでも被災地の人々の役に立つことを願っている。

被災地の社会福祉士への学生インタビューと「語り部」プロジェクト

人間福祉学部 大藪 元 康

被災地において、社会福祉士は自らも被災している中、支援を必要とする方の生活を支えています。しかし、その仕事はあまり取り上げられることがありません。このプロジェクトは、被災地における社会福祉士の支援について、学生によるインタビューを通して明らかにし、広く伝えていこうという取り組みです。福祉系大学経営者協議会復興支援委員会のプロジェクトとして複数の大学が連携して行っています。

本学の学生は、2012年8月、岩手県陸前高田市と大槌町で支援をされてきた社会福祉士の方にインタビューを行いました。学生は、被災から1年5ヶ月経った被災地の状況を見ることで長い期間の支援が必要であることを知り、自らの家族や同僚を失



いづつも住民の方々に気を配り、支援をしている社会福祉士の思いを知ることができました。

そして、学生は、インタビューで得たことを、「語り部」として広く伝えていくことを任されています。「神田町サロン」での展示や人間福祉学会での報告を通じて、すこしでも多くの方に被災地における社会福祉士の活動を伝えようとしています。

被災地での社会福祉士の活動は続きます。インタビューの中で、1人の社会福祉士の方が「震災のこと、被災地での生活を忘れないでほしい」とおっしゃっていました。多くの方に、被災地での支援について関心を持ちつづけていただきたいと思います。

被災地から学ぶ災害介護教育

短期大学部社会福祉学科 高野 晃 伸

自然災害に見まわれた要介護者の支援について、介護福祉士は重要な役割を担っていますが、介護福祉士養成教育の中に災害や防災についてカリキュラムが存在していない現状にあります。これに疑問を抱いた私たち「中部学院大学ケア研究会」は、昨年から「災害介護教育」についての研究に着手してきました。

そのような中で発生した、昨年3月11日の東日本大震災には、驚きと恐怖を感じ



沿岸部の様子

たことを覚えています。そこで私たちは、その年の5月に1週間、民間のボランティア団体を頼り、宮城県の避難所支援を主にさせて頂きました。お手伝いの傍らで見た沿岸部の風景は凄まじく、また被災され皆さんからの言葉から、当時の悲惨さが伝えられました。そのような中でも東北の皆さん



仮設商店街

んの優しい姿に、自分達が元気をもらうような気持ちになっていました。

(頁下段に続く)

2012年度 クリスマス礼拝

「クリスマス ～役割を知る者へ～」

日本バプテスト連盟 牧師 野口 哲哉 先生



日 時：12月20日(木) 11:00～12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス グレースホール

<講演内容>

クリスマスです。救い主イエスがお生まれになるクリスマス。今から約二千年前、人々に訪れた良い知らせ。その出来事に関わった人々がいました。野宿して、羊の番をしていた羊飼いたち。当時、低い身分とされていた彼らは、知らせを聞いて、救い主の誕生を喜ぶために出かけていきました。

母マリアとその夫ヨセフ。まだ一緒になる前に、身ごもったマリアに対して、ヨセフはひそかに縁を切ろうと思ったことが聖書に書かれています。身ごもったマリアとそのお腹の赤ちゃん、それはとてもスキャンダル(つまずき)に満ちた存在でした。しかし、マリアも夫ヨセフも神さまが起こされる出来事に、おそれながら、勇気を持ってそのことを受け入れ、出来事の役割を引き受けていきました。

昨年起こった、3月11日の東日本大震災。医師や看護師が、消防士や救命士が、警察官や自衛官が、介護従事者や教員や保育士が、行政担当者や市民が、大きな悲しみや苦しみの中で、自分に与えられた仕事をなし、その役割を果たしていきました。大きな出来事の中で、自らの仕事を知り、自らの役割を知り、それを果たしていく。そのような有り様の中に、希望が生まれていきます。そういう人々の間に、救い主イエスが誕生していきます。

私たちも一人ひとり、自分の役割を知り、世界の中でそれを果たしていく者となっていきたいと思えます。世界が闇に包まれたとしても、希望が生まれ、光が差し込んでくる世界と一緒に経験していきたいと思います。

<講師プロフィール>

1960年 福岡県生まれ。1983年、西南学院大学経済学部卒業。1987年 広島教会に導かれてクリスチャンに。1992年 西南学院大学神学部卒業後、北九州教会牧師(6年)、岐阜教会牧師(12年)を経て、現在は日本バプテスト連盟宣教部長。東京北教会協力牧師。妻と娘(22歳)と息子(12歳)の四大家族。

(前ページから続く)

その後、被災現場で活躍した多くの介護職員からの話を伺い、災害介護教育の中身を詰める為に、合計4回、被災地を訪問しています。行くたびに少しずつですが復興の兆しがみられ、仮設商店街の賑わいや漁に出る舟を見た時には、本当に嬉しく思いました。まだ完全な復興には時間がか

かるでしょうが、東北の皆さんには是非、頑張っ
てほしいと思います。私たちも出来る限りの支援
を続けていくと共に、皆さんから頂いた貴重なお
話を元に、これからの日本各地で起こるであろ
う災害で適切な支援ができる介護人材の育成に尽
力していきたいと思います。